日本統計学会会報

2007. 1.25 No. 130

発行―――日本統計学会
〒107-0062　東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2階
（財）統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax：03-5467-0483
編集責任―田中 勝人（理事長）／駒木 文保（庶務理事）
谷崎 久志（広報理事）／坂本 亘（広報理事）
振替口座―00190-2-61361
銀行口座―みずほ銀行広尾支店普通 1092212番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

1．巻頭随筆「国際コンファレンス雑感」 ……和合　肇…1
2．2007年度統計関連学会連合大会（第75回大会）へのお誘い ……大谷一博…3
3．2007年度統計関連学会連合大会のプログラム企画について（第一報） ……狩野　裕…4
4．2007年度統計関連学会連合大会におけるチュートリアルセッションのテーマの募集について ……上坂浩之…5
5．75周年記念事業・第２回研究集会報告 ……杉山高一…6
6．「日本の統計学発展の歴史」証言者推薦のお願い ……竹内惠行…7
7．日本統計学会春季集会の開催について ……田中勝人…8
8．シリーズ：統計学の現状と今後
8.1　「マルコフ・スイッチング・モデル」 ……中川　満…8
8.2　「統計学と如何に付き合うか」 …稲葉太一…10
9．研究部会最終活動報告：「高次元データ解析法の開発と評価に関する研究」 ……若木宏文…12
10．研究分科会最終活動報告
10.1　「統計教育分科会」……村上征勝…12
10.2　「計量経済・計量ファイナンス分科会」 ……山本　拓…13
10.3　「統計シミュレーション研究分科会」 ……杉山高一…14
11．日本経済学会連合からのお知らせ …西郷　浩…15
12．2006年度統計関連学会連合大会会計報告 ……16
13．学会誌の機関購読等に関するお願い ……16
14．評議員会議事録 ……17
15．理事会議事録 ……19
16．研究集会案内 ……21
17．新刊紹介 ……21
18．事務局から ……22

会員の皆様へのお知らせ

1．日本統計学会会長選挙開票報告

本学会細則第４条による2007・2008年会長選挙の投票を12月25日で締め切り，12月26日に日本統計学会事務局((財)統計情報研究開発センター内)において開票した結果，北川源四郎氏が当選しました．

2007・2008年会長選挙管理委員　永井　圭二・南　美穂子

2．日本統計学会春季集会のお知らせが掲載されています．そのプログラムも同封されています．

1．巻頭随筆「国際コンファレンス雑感」

和合　肇（名古屋大学大学院経済学研究科）

最近多くの研究集会の案内がメールで送られてくる．特に，秋は数多くの研究集会が世界各地で開催され，統計科学の分野でも年に十数回の国際コンファレンスが開催されている．少し前までは

郵便で集会の案内が送られていたので，発表申し込み，登録，ホテルの手配などを考えると年１回の発表でも手続きに時間がかかり，学会出張費用の申請時間等を考えると１年以上前から準備が必要であった．最近は，電子メールでの開催案内から，発表募集，会議の実施までが非常に短時間でできるようになった．一方，出張費用もCOEや科学研究費，財団等による旅費補助等を利用して出席しやすくなった．実際，多くの研究者が年数回国際会議に出席し，研究発表を行っている．私が大学に籍を置いた1975年頃，国内の研究集会でさえも年１，２回発表する程度の旅費しかなかった頃に比べると隔世の感がある．最近，海外で開催される研究集会に参加すると，若い人の発表が非常に増えているが，日本人の研究者は他国に比べてかなり少ないと思う．これはまず学会で発表し，それをステップとして就職するという事情があるが，日本国内で就職する場合，特に海外の学会で発表する必要性はないこともある．また従来から海外の学会で発表するのは，ある程度研究実績がある人に限られるという伝統があったことも一因であろう．国際学会での発表は思いがけない視点からの質問もあり，またその返答もなかなか理解してもらえないことも多い．しかしその際の質疑応答がきっかけで共同研究が進む場合もある．学会では何回か発表していると，だんだん友人もでき，様々な研究活動へのインセンティブもできるので，発表できる場合にはなるべく若い頃から発表した方がよいと思う．海外の有名教授も話してみると多くは考えているよりもフランクで議論好きである．

少し宣伝をさせてもらうと，海外で開催されるコンファレンスになかなか出席できない人のために，最近は論文等でよく知られた研究者を招聘し，特定の話題について集中的に議論をする集会を企画している．主に科学研究費を使わせてもらっているが，研究テーマに沿った会議を最近４年間で計６回，神戸，京都，東京，仙台で開催した．延べ30人の研究者を米国，ヨーロッパ，英国，アジア諸国から招聘し，若手研究者による研究発表を交えて多くの議論が行われた．開催テーマも「潜在変数モデル」，「マーケッティング」，「空間計量分析」，「階層モデル」，「応用多変量解析」といろいろ取り上げた．このような研究集会を通じて知り合いになり，共同論文を仕上げたり，留学した人もいる．しかしなんといっても最大の収穫は，日本の研究水準を大いに宣伝できたことであろう．世界の一流雑誌にいきなり投稿しても，掲載される確率は非常に低いのが実情である．もちろん英語による論文の書き方などの基本的な問題もあるが，事前にセミナー等によりどのようなことをしているかを宣伝し，当該分野の専門家のいろいろなコメントを取り込んで論文を改良することによって，論文がより採択されやすくなる．このようなセミナーは欧米では頻繁に行われているが，日本では滅多に行われない．そのために，これを意図したワークショップを日本統計学会75周年記事業として応用計量経済学の分野で９月23，24日に開催した．今回は，「マイクロ・エコノメトリックス」「時系列分析」「観測されない要素モデル」「労働」「教育と消費」の各分野で，代表的な雑誌の編集に携わる研究者による各分野のサーベイと，優れた若手研究者２名による関連論文の発表とコメント，そして発表論文に対する議論を行った．発表者の選考に当たっては，論文の内容だけでなく，論文を読んでもらえるような発表の方法についても重要な基準とした．このような試みは統計学の分野でも今後行っていく必要があると思う．

さらに今年はウィーンの高等研究所（IHS）で「第１回日欧ベイズ計量経済学と統計学の研究集会」を日本統計学会75周年記念サテライト・ミーティングとして開催した．空間計量分析や金融計量分析などの分野で日本側６名，ヨーロッパ側５名の計11本の論文の発表が行われた．この集会はわれわれの研究グループを中心としてヨーロッパの研究グループと共同で開催した集会でオープンな形で行った．海外でのこのような研究集会に対して費用の一部をサテライト・ミーティングとして補助していただいた日本統計学会75周年記念事

業に感謝するとともに，可能ならこのような補助を今後も統計学会として続けていただけたらと思う．

ベイズの方法を利用した計量経済分析は，1960年代初めに始まった．当時の研究は，計量経済的な問題を解決するためにベイズの方法を開発し，適用することが中心であった．伝統的には計量経済学は，統計学的な方法とは異なり，特定の経済理論を観測された経済データを用いて実証するために，モデルを統計的に推定し，仮説を検定し，予測を行う一連の手続きに関する方法である．このような方法に対して，観測された経済データからいくつかの制約（凸凹性，滑らかさなど）を置いて得られる最適な関数をモデル化し，その性質から経済理論を生成するという別の考え方がある．特定の経済理論を実証するのではなく，データを説明するもっともよい経済理論（関数）を探すのである．このような考え方を企業の生産活動を表す生産関数（コスト関数・利潤関数）の推定に用いた例では，すべての可能な関数に十分よく近似する関数を，Bayesian Nonparametric Density Estimationの方法を応用して，グラフィカルに生産曲面を推定した．

ベイズ的な計量経済学的研究は1960年代に急速に発展し，1970年にはベイズ計量経済学のNBER-NSFセミナーの最初の会合がシカゴ大学で開催され，その後1990年頃まで年２回各地で開催されている．1990年以降，多くの分野での実証研究問題にベイズ法を利用した例が増えてきている．この理由として，マルコフ連鎖モンテカルロ法（MCMC）に関して大きな発展があり，ベイズ計量分析へ大きなインパクトを与えたことが挙げられる．ベイズの方法を研究する集会は毎年平均して10回以上開催されている．それらの応用例，研究動向などは，国際ベイズ分析学会（The International Society for Bayesian Analysis: ISBA），国際バレンシア研究集会，それに米国統計学会ベイズ統計部会の年次大会や世界大会などで発表された数多くの論文やProceedings，そしてカーネギー・メロン大学（CMU）でのベイジアン・ケース・スタディのワークショップ論文集などに見ることができる．

ファイナンスやマーケッティングの分野ではモデル化が比較的自由であり，複雑現象を説明するモデルとしてベイズ階層モデルなどを用いる試みが多く行われている．一方，計量経済分析ではベイズの方法はあまり使われていなかった．これは簡単に利用できるソフトウェアが少ないためといわれているが，ベイズ計算を比較的簡単に実証分析で用いることができる環境も整いつつある．これらは汎用ソフトウェアを用いて行う，たとえばRにおけるMCMCPackのようなものから，MatlabやOxのMCMC関係のライブラリー，BACC，Ratsにおけるコマンドや Bugsのような専用パッケージまで多彩である．おおくの国際コンファレンスで発表される様々な分野での実証分析では，これらの計算環境を利用したものが多い．計算アルゴリズムの開発や新しい計算方法などの開発を行うものでなければ，ある程度自由にモデル化できる上記のようなソフトウェアを用いてみるのもよい．観測データをうまく説明できるようなモデリングによって，新しい知見を得ることが重要である．私にとって，国際研究集会は多数の最新のベイズ分析に直に触れ，意見を述べあい，新たな研究の方向性を探りあう実に刺激的な場所である．

２．2007年度統計関連学会連合大会（第75回大会）へのお誘い

2007年度連合大会実行委員会委員長
大谷　一博（神戸大学大学院経済学研究科）

以前に神戸大学（経済学部）で日本統計学会が開催されたのは，1991年の第59回大会でした．こ

の度，16年ぶりに，2007年度統計関連学会連合大会という大きな規模の統計関連の大会が９月６日（木）から９日（日）まで神戸大学（経済・経営・国際協力研究科が中心)で開催されることになり，連合大会実行委員会委員長の役をお引き受けすることになりました．ここでは，神戸大学および神戸周辺について簡単に紹介させて頂きます．

神戸大学は，六甲山の中腹にあり，神戸の夜景がとてもきれいに見えます．また，緑にも恵まれていますので，初めて来られた方は，「いい所ですね」と言ってくれます．しかし，坂と階段のきつさは超一級で，一度体験すると「住みたい」とは思わないようです．神戸は，人口150万を超える都会のはずですが，東京などの他の大都市と比べると相当田舎になります．例えば，東京で山手線に乗ると，どの駅で降りても夜遅くまで明かりが煌々と灯っていますが，神戸で夜まで明るいのは三宮駅周辺（駅は，すべてJRです．）からせいぜい元町駅位までで，一つ西隣の神戸駅前は，夜になるとかなり寂しくなります．

神戸の町と言えば，異人館や港が思い起こされますが，まず余り知られていない所をご紹介させて頂きたいと思います．神戸駅の一つ西隣の兵庫駅を少し海側に下がった所に，兵庫大仏という大仏さんがあります．この大仏さんは，日本３大仏の一つであり，鎌倉の大仏さんより５メートル大きいそうです．しかし，開眼したのが明治24年（1891）で，比較的新しいこともあって，神戸の人でもご存じない方が大勢います．ただ，もとの大仏さんは，太平洋戦争の時，金属回収で供出されてしまい，現在の大仏さんは平成３年（1991）に再建されたもので，まだピカピカでとてもきれいです．

神戸から西に進むと，舞子駅があり，明石海峡大橋（パールブリッジ）を望むことができます．この明石海峡大橋には，ご存じの方も多いと思いますが，舞子側の橋桁に舞子海上プロムナードがあり，アンカレイジから海側に150m程進むことが出来ます．一部がガラス張りになっていて，足下の海面を見ることができ，スリルがあります．ただし，高所恐怖症の方は，見るのはやめた方が良いかも知れません．

元町駅の海側に南京町があります．ここは，横浜の中華街の３分の１程度の面積ですが，行列のできる豚饅専門店をはじめ，多くの中華料理店があり，中華料理を堪能できます．また，南京町を抜けて海まで行くと，ポートタワー，メリケンパーク，ハーバーランドがあります．このメリケンパークからは，明石海峡大橋までを周遊してくれるクルーズ船が出ており，ディナーを楽しみながら大橋を見ることもできます．

当大会に多くの会員の方が参加され，研究活動とともに会員同士の親睦を深め，また神戸の良さも知って頂ければ大変うれしいと思います．（本文の作成に際し，金治努・先崎仁『神戸雑学 ―まちの大発見・小発見』を参考にしました．）

３．2007年度統計関連学会連合大会のプログラム企画について

2007年度連合大会企画委員会委員長
狩野　裕（大阪大学大学院基礎工学研究科）

2006年も残りわずかとなり，統計関連学会連合大会の準備が本格化してきました．2007年度の連合大会は，応用統計学会，日本計量生物学会，日本計算機統計学会，日本行動計量学会，日本統計学会の主催と日本分類学会の協賛により，2007年９月６日（木）から９月９日（日）までの日程で「異国情緒豊かな港町」神戸大学（経済・経営学部本館）にて開催されます．大会のソフトの部分を担う企画委員会では，市民講演会，チュートリアルセッション，企画セッション，コンペティションセッション等を組織しています．会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせく

ださい．なお，連合大会のWebページ：

http://www.jfssa.jp/taikai/

に関連情報が随時掲載されます．

今回は，企画セッションとチュートリアルセッションについて公募をすることにしました．企画セッションの公募は過去の大会と同様です．各学会の会員同士が互いに啓発され，相乗効果が生まれるような企画をご提案ください．応募が多数の場合には企画委員会で調整させていただくこともありますのでご了解ください．企画セッションの申込みに際しては，セッションのテーマとねらい，オーガナイザーの氏名・所属・連絡先，予定講演者と演題名，必要な時間（プログラム編成上，90分から120分の間に願います）を狩野宛てメールにてお知らせください．

企画セッション応募締切り：
2007年２月20日（火）
企画セッション応募先：
連合大会企画委員会委員長
狩野　裕（大阪大学）
kano@sigmath.es.osaka-u.ac.jp

チュートリアルセッションは例年好評です．今回は会員の皆様の潜在的な需要を掘り起こしたいと考え公募することにしました．チュートリアルセッションとして魅力あるテーマ，希望する講師の氏名と所属等，内容の概略，そして，ご提案の理由を簡潔にまとめて，上坂（チュートリアルセッション責任担当）までメールでお知らせください．同セッションのテーマ数は限られていますので，ご提案が採用されない可能性があります．その際はご容赦願います．チュートリアルセッション公募の詳細は連合大会のWebページを参照してください．

チュートリアルセッション応募締切り：
2007年１月31日（水）
チュートリアルセッション応募提出先：
連合大会企画委員
チュートリアルセッション責任担当
上坂浩之（日本イーライリリー）
taikai_kikaku07@jfssa.jp

一般講演や参加の事前申込み，報告集原稿提出は基本的にホームページ上で行うこととします．現在，委託業者と詳細を詰めているところですが，それぞれの締切りは，一般講演申込（５月下旬），報告集原稿提出（７月上旬），参加事前申込（８月中旬）と考えております．確定した期日は具体的な企画とともに2007年４月ごろ第二報でお知らせいたします．

2006年度の仙台大会は参加者が800名を超え国内の統計科学に関する大会では最大規模となりました．神戸大会では主催学会が３つから５つに増えます．同大会が，統計科学の最新の情報交換の場として，さらに有意義になることを期待しています．

４．2007年度統計関連学会連合大会におけるチュートリアルセッションのテーマの募集について

2007年度連合大会企画委員・チュートリアルセッション責任担当
上坂　浩之（日本イーライリリー）

2007年の統計関連学会連合大会は９月６日～９日に，応用統計学会，日本計算機統計学会，日本計量生物学会，日本行動計量学会，日本統計学会の主催で神戸大学にて開催されます．今回も例年にならい，大会にあわせてチュートリアルセッションを開講する予定です．セッションの目的には，１）新しく発展しつつある話題に関する現在までの成果を紹介すること，２）特定の領域で発展し

た話題を多くの方々に紹介すること，３）すでに確立している話題であっても，これからその領域を学びたい方を対象とした講義，４）日常業務の中で学ぶ機会のない方を対象とした入門講座，などがあるでしょう．2006年までは，比較的話題を集めそうな１～２テーマを取り上げてまいりました．しかし2007年度は，新しい試みとして，関連学会会員の方々の声を反映したテーマを取り上げることができるように，チュートリアルセッションのテーマを連合大会の主催学会の会員より募集することとなりました．主催学会が５学会となりましたので，今まで以上に様々な領域のテーマを扱うことができるでしょう．聴講したいセッションのテーマがありましたら，テーマ，希望する講師と所属，内容の概略，提案理由を添えて，チュートリアルセッション責任担当の上坂浩之宛メールにてご応募ください．応募の期限は2007年１月31日とさせていただきます．なお，テーマの選定は企画委員会に御一任いただきます．

応募締切：2007年１月31日（水）
応募内容：
応募者氏名，テーマ，希望する講師と所属，内容の概略，提案理由
応募先：上坂浩之（日本イーライリリー）
taikai_kikaku07@jfssa.jp

５．75周年記念事業・第2回研究集会報告

日本統計学会75周年記念事業委員会委員長
杉山　**髙**一（中央大学理工学部）

最近の急速な高度情報化の深化とともに，現在はIT社会が到来し，「ソフト」「データ」「知識」が中心の時代へと進んでまいりました．社会経済・自然現象の両面にわたって不確実性が飛躍的に増大すると予測される21世紀の社会では，確かなデータに基づき不確実性を科学的に分析し，持続可能な社会の発展に寄与する「新たな知識の創造」が大きな社会的要請であり，そこで統計学の役割はさらに重要になってきています．

日本統計学会は1931年に設立され，2006年に創立75周年を迎えました．これを期に，統計・統計学の現状を振り返り，21世紀におけるさらなる社会貢献を目指して，「21世紀の知識創造社会を支える統計科学の現状と展望」というテーマの下に，75周年記念事業を企画いたしました．その中で２つの大きな研究集会を行うことを決め，第１回研究集会は５月に東京大学で開催しました．第２回研究集会は75周年記念事業の終わりの2006年12月16日（土），17日（日）に２日間開催しました．東京の中央大学後楽園キャンパス新３号館の最上階が会場で，全国から200名近い方々が御参加下さいました．年末の週末というお忙しい中を，本研究集会に参加・協力していただいた方々へ深く感謝いたします．

５つのセッションを設けました．【セッション名】オーガナイザーを以下に記します．【Computer Intensive Statistics】杉山髙一，【統計数理科学の新たな地平】栗木哲，【知識創出のための統計科学研究の振興と教育政策】渡辺美智子，【社会調査と統計科学】岡太彬訓，【統計科学とマーケティング】和合肇．基調講演をあわせて講演総数は15件，それぞれのセッション後には総合討論があり，活発な質疑応答が行われました．この他にポスターセッション４件の発表がありました．特に中央大学の藤越康祝先生には「21世紀に向けた統計学の挑戦的課題と展望」のタイトルで格調高い基調講演を行っていただきました．統計学の未来について，いくつかの重要課題を示す等，大変興味深く示唆に富む講演でした．この藤越先生の講演に対し伊藤孝一先生等から，価値あるコメントがありました．また16日夕方に行われた日本統計学会75周年祝賀パーティーには70名程の方々のご

参加をいただき，こちらも盛況でした．

アジアの統計学者を代表して，国際計算機統計学会元会長のProf. Jae-Chan LEEが来日し，日本統計学会75周年のお祝いの言葉を述べて下さいました．先生は「統計科学研究の振興と教育政策」のセッションの討論にも参加してくださり，「私は日本統計学会50周年の集会に来日し，そのとき日本も韓国も統計学科は０でしたが，統計学科の必要性に関する討議に出席し，統計学科の必要性を感じ，韓国では統計学科が現在50程の大学にある」こと等，この25年間での日本との違いを話していました．前に書くべきでしたが，75周年記念事業と協賛で，大橋靖雄先生の企画で臨床研究・生物統計研究会が16日（土）に中央大学の同じ新３号館３階で開催されました．

この研究集会を企画するにあたり，オーガナイザーをお引き受けくださった先生方，講演をしていただいた先生方に感謝申し上げます．会場の予約，手配は大学院理工学研究科の長をされている鎌倉稔成先生のお力をお借りいたしました．研究集会の前に幾度となく中央大学に来て準備に協力いただいた75周年記念事業担当理事の竹田裕一先生（神奈川工科大学），26人程の研究室の大学院生・卒業研究生を綿密な仕事配置等を立て指揮した村上秀俊君，日野絵美子さんに感謝いたします．前後を含めて６日間ほどボランテァで働いてくれた杉山早苗さん，研究集会の後，400冊ほどの講演報告集の送付に学生とともに働いてくださった事務局の金森京子さんに感謝いたします．前庶務理事の前田忠彦先生にも多大なご協力を頂きました．皆々様に心から御礼を申し上げます．尚，講演報告集は100冊ほどの残があります．ご希望の方は日本統計学会事務室（統数研）の金森京子さんまでご連絡下さい．また，研究集会会場での写真，パーティーでの写真は，参加者だけに見ていただくためにホームページに貼ってあります．暗証番号が必要ですので，ご希望の方は，jss75@jss.gr.jpまでお申し出下さい．

最後に，本研究集会をもって75周年記念事業はほとんど終了となります．しかしながら，記念事業の一環として，本の作成や学会誌・会報のとりまとめ，75周年記念出版賞，図書の推薦等の仕事が残っています．また，大阪大学の竹内恵行先生には統計学会の歴史に関する資料の収集等に協力頂いています．記念事業の委員の先生，会員の皆様方にはまだご協力いただくことがあるかと思われますので，今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます．

６．「日本の統計学発展の歴史」証言者推薦のお願い

75周年記念事業委員会委員・出版目録等作成検討担当
竹内　惠行（大阪大学大学院経済学研究科）

2006年９月に開催された75周年記念事業委員会の席上で，「50周年記念事業」で行われた日本の統計学の足跡を残す作業を再度行ってはどうかという提案があり，日本の統計学の発展に貢献された統計学関係者の証言をご本人の回顧録やインタビュー記録の形で残すことを検討しております．

最近，戦後間もなく統計学の研究や普及に携われ，日本の統計学の発展に貢献された方々が相次いで鬼籍に入られるようになってきております．そのような方々がお元気なうちに，その証言を残しておくことは，学会としても意味のある事業であるかと思います．

そこで，会員の皆様に「証言を残しておきたい」統計学関係者とその質問項目についてご推薦をお願いしたいと考えております．自薦，他薦は問いませんので，ご協力をお願いいたします．

連絡先：〒560-0043　豊中市待兼山町1-7
大阪大学大学院経済学研究科
竹内　惠行 宛

Fax: 06-6850-5274
E-mail: jss75@jss.gr.jp
takeuchi@econ.osaka-u.ac.jp
（件名（タイトル）に，統計学会証言推薦，とご記入ください）

なお，本事業の実施にあたっては，記念事業期間を超えて継続できるよう，「50周年記念事業」の際と同様に，別途科研費を申請中であることを付け加えます．

7．日本統計学会春季集会の開催について

田中　勝人（日本統計学会理事長）

2006年11月の評議員会において，日本統計学会創立75周年記念事業の一環として，標記の集会を開催することが決定されました. ご承知のように，2002年に統計関連学会連合による大会が開催されて以来, 本学会は独自の大会を開催することなく，今日に至っています．そこで，今回の集会は，統計科学のさらなる発展のために，本学会としての個性を十二分に発揮する場として企画されたものです．現時点（2006年12月末）では，次のことが決まっています.

・期日：2007年３月10日（土）10時－17時30分
・場所：東京理科大学神楽坂キャンパス
（ノービィビル６階）
・セッション（プレナリー形式）：
１）「データ解析の方法－新たな解析ツールの検討と開発」オーガナイザー：
中野純司（統計数理研究所）
２）「統計数理研究の最前線－若手研究者による成果報告」オーガナイザー：
清水邦夫（慶応大学理工学部）
３）「統計科学の現状と将来－さらなる発展への具体的提言」オーガナイザー：
田中勝人（一橋大学大学院経済学研究科）
・参加費：無料（事前申し込みは不要）
・懇親会：18時－20時（東京理科大学理窓会館にて会費3,000円，当日徴収）

参加希望者は，３月３日（土）までに，瀬尾隆会員宛にメール（seo@rs.kagu.tus.ac.jp）あるいはFAX（03-3260-4293）で連絡をお願いします.

なお，本集会の詳しい内容については，会報と一緒にプログラムをお届けする予定です．また，学会のHPに掲載し，会員へのメールで周知することにします．年度末の多忙な時期とは存じますが，多くの会員のご参加をお待ちしています.

8．シリーズ：統計学の現状と今後

8.1　「マルコフ・スイッチング・モデル」

中川　満（大阪市立大学大学院経済学研究科）

マルキールの「ウォール街のランダム・ウォーカー」の原文に以下のような一節があります.

（学者先生方は方程式だのグリーク〈オプションのΔ，Γ等〉だのに没頭しすぎて，）“they couldn’t tell a bull from a bear, even in china shop.”（Malkiel 2004, p.24）

これは，ウォール街の金融アナリストたちが，株価の変動をランダムウォーク過程とする効率的市場仮説をとなえる学者先生を揶揄する言葉なのですが，「やつらは買い時（bull）と売り時（bear）の区別すらつかないんだ．場が読めないこと陶器（とうき）屋に牛の突進をするが如しといった連中だからな.」とでも訳すのでしょうか.

いずれにせよ株価がbull（買い）とbear（売り）の二つの値をとる（観測できない）状態変数によ

ってドライブされているというのは証券の世界では常識なようです．離散値をとる状態変数が観測できない潜在変数としてあり，観測できる変数はその状態変数によってドライブされているというのは金融市場に限らず広くさまざまな世界にあてはまるのではないでしょうか，たとえば，為替レートの変動に関しても，中央銀行が市場介入の可能性をちらつかせて市場に影響力を行使している場合とそうではない場合でことなる動きをするようです（Lee and Chen 2006）．

では状態変数の変化はというとマルコフ連鎖としてモデル化することになります．遷移行列を時間について不変とするか，時変とするかは対象によって変わります．時変の場合は，外生変数によって遷移確率が変動するため，状態の今後の変化についての情報が意味を持ってきます．たとえば市場がbullであるとして，そのbullの状態がどの程度継続するかについて外生変数の予測値をもとに推測することができます．もうひとつの問題として，マルコフ連鎖がergodicかどうかですが，経済学の場合はergodicであるケースを扱うことになります．この場合は１本の時系列があれば推定できます．これに対して，音声認識等の世界ではergodicではない場合を想定することになります．

一例として，Hamilton（1989）によるGNP成長率への応用をみます．GNP成長率をY_t，状態変数C_tは２状態のマルコフ連鎖に従い，V_tを平均０，分散１の誤差項として，$Y_t=\sum_{i=1}^{d} a_t(Y_{t-i} - \mu(C_{t-i})) + \sigma V_t$というモデルです．これは，Autoregressive（AR）Modelの平均（ここでは平均成長率）を状態変数によって変化させたもので，Morkov-Swiching AR（MSAR）モデルと呼ばれています．状態変数の意味づけは，景気の拡大期と後退期で，彼はこのモデルをもとに，各時点における観測できない状態変数が拡大期に対応する確率を計算し，それを元に景気の転換点を割り出しました．最初の論文では，AR係数は状態変数に依存していませんが，依存する拡張も容易です．景気循環の問題にMSARを初めて適用したのは，S.N. NeftçiとS.L. Scloveといわれています．

さて，そろそろ計量経済学以外の方からの「お前の言っているのはHidden Markov Model（HMM）のことではないのか？」という突っ込みが聞こえてまいります．Cappé et al.（2005）は，以下のような定式化で区別しています．まず状態変数X_{k+1}に関しては，U_kをi. i. d.の確率変数とすると，遷移方程式は$X_{k+1}= a(X_k,U_k)$となり，観測変数Y_{k+1}については，Y_kをU_kと独立なi. i. d.の確率変数として，観測方程式は$Y_{k+1}= b(X_{k+1},Y_k,V_{k+1})$と定式化できます．これに対して，HMMでは，観測方程式は$Y_{k+1}= b(X_k,V_{k+1})$となって，状態変数X_kに関して条件付で考えた場合，観測変数の記憶性がなくなっています．この区別はあまり一般的ではないようで，他の書籍ではHMMのサブクラスとして扱われていることもあります．また，Markov Jump Systemsとよばれることもあるそうです．

推定は，EMアルゴリズムによる最尤法がよく用いられます．モデルが複雑な場合，例えば遷移・観測方程式が非線形の場合，E-stepはモンテカルロ法によって構成されます．もし，状態変数の状態数が既知であれば，推定量の漸近正規性までわかっています．これを用いて検定もできます．このモデルの困難点としては，（1）モデルが複雑で尤度局面に多くのlocal optimaが存在する，（2）状態数の決定に関して正則条件が満たされていないため，アドホックな方法をとるしかないがあげられます．（1）の問題は，準ニュートン法による最尤法が用いられない理由ですが，EMアルゴリズムでも発生する問題です．これらの問題から，確率的な方法が有効であることが予想されますが，その場合，ベイズ・アプローチによるMCMC（Markov Chain Monte Carlo）法による解法が多用されています．状態数の問題に関してはBayesian Model Selectionによります．

マルコフ・スイッチング・モデルの応用は多岐に亘っています．景気循環については，好況・不況などの転換点を推定するというこのモデルの最初の応用があげられます．最近は，好況・不況の２状態ではなく，３状態のモデルがあてはまりがよいとされているようです．金融分野に関しては，

為替レートの変動のモデルとして特に優れているといわれていますし，ボラティリティーの変動に当てはめたものなどもあります．この場合は，観測方程式が非線形になります．かわったところでは，変額年金保険の設計にこのモデルが使用されています．金融分野での応用に関しては，［Bar and Hamori 2004］，［Hamilton and Raj 2002］なども参考になるでしょう．

今後の展望ですが，拙文の冒頭で例に挙げたように，アイデアが単純であり，直感的なアピールがあるため，マルコフ･スイッチングを応用したモデルが新たに出てくる可能性はあります．料理の隠し味的に観測できないマルコフ連鎖に従う状態変数を入れたモデルをみなさんもいかがですか？理論的には状態数の決定問題が興味を引きます．

HMMを含んだ理論的な概説書としては，［Cappé et al. 2005］，またベイズ的アプローチによるものとしては，［Fühwirth-Schnatter 2006］があります．計量経済学関係の概説書としては，古いですが［Kim and Nelson 1999］があります．

以上，日本統計学会にはこのモデルの発展に貢献されている諸先生方がいらっしゃるのに浅学を省みず，長年のマルコフ・スイッチング・モデル・ウォッチャーとしてこのモデルを紹介させていただきました．2007年度は学部第１部（昼間部）の教務委員もお役御免になり，全学教育関係の教務に専念できます．ウォッチャーからコントリビューターに変貌したいものです．

参考文献

Bhar, R. and S. Hamori (2004) *Hidden Markov Models: Applications to Financial Economics* (*Advanced Studies in Theoretical and Applied Econometrics*) , Kluwer Academic Publishers.

Cappé, O. et al. (2005) *Inference in Hidden Markov Models,* Springer.

Fühwirth-Schnatter, S. (2006) *Finite Mixture and Markov Swtiching Models,* Springer.

Hamilton, J.D. (1989) A New Approach to the Economic Analysis of Nonstationary Time Series and the Business Cycle, *Econometrica*, 57, 357-384.

Hamilton, J.D. and B. Raj (2002) *Advances in Markov Switching Models,* Physica-Verlag.

Kim, C.J. And C.R. Nelson (1999) *State-Space Models with Regime Switching,* MIT Press.

Lee, H.Y. and S.L. Chen (2006) Why use Markov-Switching Models in exchange rate prediction? *Economic Modelling, 23,* 662-668.

Malkiel, B.G. (2004) *A Random Walk Down Wall Street* (Revised and Updated Version), W W Norton.

8.2　「統計学と如何に付き合うか」

稲葉　太一（神戸大学発達科学部）

０）はじめに

想えば，私は生まれてこの方，ずっと統計学と関わって来た気がします．とにかく，勉強するという気持ちで関わるずっと前から，カードゲームの成績を集計し，方法論を改善してはその成果を数値的に把握し確認をする作業を延々と行っておりました．その後，理論統計に一時的に没頭していた時期もありましたが，鳴かず飛ばずで過ごしています．ただ最前線の方々だけではなく，たまには，逆方向から「統計学の現状」を見ている観点も紹介し，若い研究者の方にとって反面教師としての寄稿もお許し頂きたいと思います．

１）現実との遊離

昨今の「統計学」の面白く無さは，どうしたことでしょう．ちなみに，この発言は，勉強不足の自分を覆い隠すための「自己弁護」の側面も強いです．しかし，理論統計の面白さは厳然として存在するのに，その本質的転換が見られないのが詰まらないと感じています．とはいえ，学位の取得，就職や昇格など，我々の日常には，論文作成以外の「公平な尺度」は無いのが現状です．これに頼らざるを得ないのが現状ではあるのですが，このことが統計学の本来の「現実のデータの解析法を考える」というバイタリティを奪っている気がし

ます．

20代の頃，とある勉強会で Q and A の重要性を熱く語っている方が居られました．職場で，統計的な質問を受け付けて回答しているというボランティア活動が，統計学の修得には大切であるとのことでした．その時は，自分の将来に繋がらない活動に思えたのですが，時が経つにつれ，その方向に興味を感じている自分が居ます．

２）応用分野との出会い

若い頃，最も統計理論的に評価された仕事は，応用分野を持たない「純粋に理論的な仕事」でした．最近の数年間，私は２つの分野で楽しい時間を過ごしました．１つは，社会調査の分野でJGSS（日本版一般的社会調査）のプロジェクトに参加させて頂いたことです．データ解析の現場を知らずに生きていた私に，調査の原点である設問項目の設定に，細心の注意を払い心を砕く方々を間近に見られたことは得難い経験でした．また，もう１つは，発達心理の分野で，乳幼児における言語獲得の数値データをモデル化するという研究でした．

統計学に価値があるとすれば，これら分野で適切に解析方法や改善提案がなされなければなりません．しかし，私の力量不足もあって，いずれの場面でも簡単に解決策は見つからず，前者に対してはようやく自分の意見を述べ，後者に関しては複数の院生の方々の長期間の試行錯誤の結果，解析方法を提案できた段階です．ただ，活き活きとした生のデータと接する過程で，心躍る気分を味わう事ができ，本当に幸運でありました．残念ながら，現在の職場においては，これらの仕事は理論的でないことで殆ど評価されておりませんが，私の中では，本質的に活力を頂いたことは確かです．

３）人との繋がり

実は，統計学に限らず，最も大切なことは，人との繋がりだと思います．私は，社会調査の，特に設問項目の考え方を勉強したことによって，私は，大学が行っている「授業評価」に興味を持つようになりました．お恥ずかしい事ながら，我が大学では，膨大なアンケートを実施しているにも拘らず，その解析を責任を持って行う体制がありません．アンケートの結果を評価するのは，教員個人であり，自分に都合の悪い結果は無視する事が可能です．私自身の責任問題は棚に上げ，どのようにすれば良いかについて，提案をしたいと思います．それは，人との信頼関係です．この統計家に任せても安心だ，という信頼関係を築く事が出来ない時，人は，自分達の大切なデータの分析を，その統計家に任せることはありません．とかく，統計家のみならず，数学関係の人間は，是か非かで物事を判断しすぎる傾向があり，組織の中で疎まれる傾向があります．私は，自分の「締切を守らない性格」と「攻撃的な性格」の為に，神戸大学が他大学に誇れる「教室から溢れない最適抽選システム」を最適でないものに後退させてしまいました．

４）教育への可能性

実は「データ解析にベストはない．ベターがあるだけだ．」という言葉は，今年，東京理科大学を退官される吉村功先生の言葉です．いつも，この言葉に励まされながら只管ベターを目指しております．この数年，学部学生の卒業研究で自分の日常を解析している素敵な卒論に出会うにつけ，その楽しさと統計学の真の方向性を見る気がしております．教育は，目の前に居る人に対してのみ知恵を伝達する行為であり，極めて非生産的な活動ではあると思います．しかし，教育は無償の愛でもある気がします．もし人との繋がりの中から統計学を人類の叡智に発展させてくれるような人が育つ素地を作れるとしたら，これに優る幸せはありません．理論統計に対する興味と，現実のデータへの対応策を両輪として，バランスの取れた人が増えることを楽しみに筆を置きます．

9. 研究部会最終活動報告：「高次元データ解析法の開発と評価に関する研究」

若木　宏文（広島大学大学院理学研究科）

主査：若木　宏文（広島大学大学院理学研究科）
活動期間：平成16年11月～平成18年11月
活動の概要：

本研究部会では高次元データ解析法の開発と評価に関する研究を主題として，研究報告および討論を行った.

前年度は９回の会合を開催し，主として部会員による研究報告を行い討論を行ったが，本年度は主題に関する研究集会の開催を軸とし，統計関連学会連合大会その他，以下に掲げる研究集会に参加して成果発表を行った.

（1）広島大学計量生物講座水曜セミナー
（2）広島統計グループ金曜セミナー
（3）広島統計談話会
（4）2006年度統計関連学会連合大会（一般セッション）
（5）日露共同研究プロジェクト研究集会「確率的モデルに対する漸近理論とその応用」（広島大学理学部）
（6）中央大学理工学研究所共同研究プロジェクト「多変量高次元データ解析の理論と応用」（中央大学理工学部）
（7）日本統計学会研究部会による研究集会「高次元データ解析法の開発と評価に関する研究」（広島大学医学部）

成果：

正規母集団に関する種々の統計量の高次元漸近展開の導出と誤差限界，次元が標本数より大きい場合の２群の同等性検定，Boostingによる高次元データの判別法と変数の有効性の評価，林木成長データ，被爆と癌罹患に関するデータ，マイクロアレイデータの解析手法の開発など，基礎的な理論から応用まで様々な成果を得ることができた.

10. 研究分科会最終活動報告

10.1 「統計教育分科会」

統計教育分科会会長
村上　征勝（同志社大学文化情報学部）

本分科会の目的は,

（1）小・中・高校・大学における統計教育，あるいは社会人等を対象とする統計教育の実践，ならびに研究に関する研究会の開催
（2）各種統計教育の実践，ならびに研究のための作業グループ，臨時プロジェクト等の活動
（3）統計教育に関する他の学会，諸団体との共同プロジェクトの実施
（4）その他分科会の目的を達成するための適切な作業

を通して統計教育の普及・発展に貢献することにあり，平成14年度12月から平成18年度12月までの４年間に４回のシンポジウム，２回のワークショップの開催などを中心に以下のような活動を行いました.

●2003年度統計関連学会連合大会［平成15年９月３日］
　企画セッション：統計教育（統計教育の問題点と他組織との連携）の設置
●第１回統計教育に関するシンポジウム［平成16年３月13日］の開催
　「統計教育のあり方を探る」
●2004年度統計関連学会連合大会［平成16年９月４日］

一般セッション：統計教育企画セッション「新しい教育環境における統計教育とカリキュラム―新時代における統計教育の標準化に向けて―」の設置

●第２回統計教育に関するシンポジウム［平成17年１月24日］の開催
「社会における統計活用の実際と大学での統計教育との接点～その意義と役割～」

●第１回統計教育の方法論ワークショップ［平成17年３月５日］の開催
「総合学習における統計リテラシーの育成～グラフと数字をみる力～」

●「21世紀の知識創造社会に向けた統計教育推進への要望書」を文科省へ提出［平成17年６月，８月］

●第３回統計教育に関するシンポジウム［平成17年11月17日］の開催
「プロフェッショナル育成のための統計教育に関するシンポジウム～専門職大学院における統計教育と関連資格～」

●第２回統計教育の方法論ワークショップ［平成18年３月４日］の開催
「統計教育の達成目標をさぐる～リテラシーから統計的推論力，課題解決力へ～」

●第４回統計教育に関するシンポジウム［平成18年３月14日］の開催
「電子社会における統計手法のニーズの把握と大学における統計教育の効果的展開Ⅱ」

●2002年度～2006年度数学教育学会春季例会，秋季例会における統計教育セッション設置への協力

●日本統計学会統計教育賞の推薦

●ホームページの作成，統計教育部会会員募集（注：会費なし）

10.2　「計量経済・計量ファイナンス分科会」

計量経済・計量ファイナンス分科会会長
山本　拓（一橋大学大学院経済学研究科）

当分科会は，2003年１月に森棟公夫氏（京都大学教授）を会長として発足しました．その後2005年１月より私が会長を引き継ぎました．会員数は当初約40名で発足し，現在は約70名です．なお，昨年11月に開かれた評議員会において，当分科会の継続申請が認められました．2007年１月からは，国友直人氏（東京大学教授）を会長として引き続き活動を行うことになっています．以下，当分科会発足からの４年間の活動を簡単にまとめます．

この４年間の主たる活動は，以下の４事業にまとめられます．

１）分科会メールリストの発足

統計学会のサーバー上に（情報担当理事の管理の下に）分科会メールリストを立ち上げました．各種コンファレンスおよびセミナーの開催の情報，人事案件等，会員間の情報交換に有用に用いられてきました．

２）年会の開催

毎年，日本経済学会の秋季大会を利用して下記のように年会を開き，当会の活動の方針について検討してきました．例えば，研究集会開催の調整，コンファレンスの情報交換，統計連合大会における企画セッション提案，科研費の申請にまつわる問題等について，意見交換・情報交換を行ってきました．

日時	場所
2003年10月13日	明治大学
2004年９月26日	岡山大学
2005年９月18日	中央大学
2006年10月21日	大阪市立大学

３）研究集会の開催の支援（協賛）

当分科会は関東エリア，関西エリアで毎年１回ずつ研究集会を支援（協賛）してきました．従来より関西エリアではKKKK（関西計量経済学研究会）の研究集会が恒例化していました．これを当分科会が協賛することとしました．一方，関東エリアの研究集会は断続的でありました．そこで各大学がCOE等で開催する研究集会を適宜協賛することとしました．この分科会発足が刺激となり，

関東エリアでも研究集会が定期的に開かれるようになったことは，分科会発足の重要な成果の一つと考えられます．（なお2006年度は，それらの研究集会に対して75周年記念事業委員会からサテライト研究集会として支援が与えられましたので，分科会協賛の研究集会はありませんでした．）研究集会の具体的日時，場所は以下の通りです．（日時，場所，主たる開催組織の順に記載）

・2004年１月10日，神戸大学，KKKK（関西計量経済学研究会）
・2004年２月28，29日，京王プラザホテル，都立大学COE
・2004年12月18，19日，一橋大学，一橋大学COE
・2005年１月８，９日，広島大学，KKKK
・2006年１月７，８日，一橋大学，一橋大学COE

以下の研究集会は，75周年記念事業のサテライト研究集会として開催

・2006年２月18，19日，神戸大学，KKKK（神戸大学COE）
・2006年７月16，17日，京都大学，KKKK（京都大学COE，神戸大学COE）
・2006年９月23，24日，東京大学，一橋大学COE

４）統計関連学会連合大会における企画セッションの提案：

分科会として企画セッション（ボラティリティーのセッション等）の提案をしました．

５）総括：

このように当分科会は，研究集会の支援，連合大会企画セッションの提案等を通じて計量経済学研究者，計量ファイナンス研究者の活動の活発化に貢献すると共に，メールリスト，年会を通じて研究者間のより迅速・緊密な情報交換に有用な役目を果たし，その存在は日本の計量経済学研究者・計量ファイナンス研究者の間に定着してきたと考えています．今後とも皆様のご支援をお願いいたします．また当分科会に参加希望の方は，国友直人会長（東京大学）までご連絡ください．

10.3 「統計シミュレーション研究分科会」

杉山　**高**一（中央大学理工学部）

日本統計学会における研究活動を促進することを目的として，私が理事長のときに研究分科会の設置が承認されました．正確には2002年９月７日に開催された2000・2001年度第５回評議員会で討議され，一部修正の後に認められました．研究分科会は，統計学会のサーバを活用し，分科会会員の研究成果を発表する場として，e-journalを発行すること等もできます．統計学会のホームページに載せるだけでなく，作成されたe-journalは科学技術事業団が無料で提供している科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）にも載せることができます．また，STN（The Scientific and Technical information Network）ユーザーであれば，世界中の誰でもスムースにJ-STAGEのe-journalにアクセスすることができます．このように世界に成果を発信するのであれば，数人によるレフリーシステムを構成し，ある水準以上の論文をe-journalに載せることできます（日本語による論文も可）．統計分科会は会員以外の方にも大いに加わっていただき，その活動を通して統計学の研究および普及の促進に寄与することを期待して始まりました．新たな会則に基づいて３つの研究分科会が設置され，そのうちの１つが「統計シミュレーション研究分科会」でした．

研究分科会会長に就任した私は，日本統計学会会長の仕事，中央大学大学院理工学研究科の長の仕事等が重なり，さし当たっては，統計シミュレーション研究分科会の趣旨に沿った講演を主にして，活動をしました．４年間に行われた講演タイトルと講演者名を以下に記します．（1）乱数の検定法に関する研究と展開【竹田裕一】，（2）統計的新しい共通鍵暗号方式による多変量データの秘匿について【杉山髙一，篠原敬】，（3）個票開示問題の現状と展望【竹村彰通】，（4）乱数による個人情報の保護と活用【中村剛】，（5）乱数の独立性に関するDeterminant統計量について【篠原敬，杉山髙一】，（6）２曲線の差の検定について

のシミュレーション【田栗正章】,（7）MCMCの計量分析への応用【和合肇】,（8）２標本モデルにおける共通平均の単調回帰による推定法とその妥当性の数値的検討【津熊久幸，今野良彦】（9）正規性の尺度としての歪度・尖度の推定量の評価【鎌倉稔成】,（10）Continuous bootstrap【仁木直人】,（11）Simulation study of some nonparametric test【村上秀俊】,（12）Simulation for exact computation on distribution of some contribution ratio【橋口博樹】,（13）共分散行列に関する検定のシミュレーション研究【塚田真一】,（14）統計教育におけるシミュレーションの活用【杉山高一，竹田裕一】

その他にProf. T.W. Anderson, Prof. H. Bock, Prof. Jae-Chan Lee等にも講演をしていただきました．e-journalの発行責任者に塚田真一先生を指名し，仁木直人先生を始めとした編集委員も決めて，これからと思うときに任期の４年間が来てしまいました．継続するか否かを何人かの主要メンバーと相談しましたが，継続の申請はしないことにいたしました．私のような67歳になった人間の考えではなく，コンピュータ世代に研究者になった若い方の感性で研究会を運営し研究を進めていただくのがよい分野であると考えます．これを踏台にして同様なテーマの研究分科会ができることを期待して，私の報告とさせていただきます．

11．日本経済学会連合からのお知らせ

西郷　浩（日本経済学会連合評議員）

日本統計学会が加盟する日本経済学会連合では，例年通り平成19年度も加盟学会に対して国際会議派遣補助を支給します．応募者多数の場合，日本経済学会連合理事会が対象者を選考します．また，１回の募集につき１学会１件の応募が原則ですので，希望者が複数の場合には理事会で選考いたします．募集方法の詳細は日本統計学会事務局にお問い合わせください．

日本経済学会連合　国際会議派遣補助

（ａ）目的：

加盟学会の会員が，平成19年４月１日から平成20年３月31日までに開催される海外での国際会議に出席する場合，往復渡航費・宿泊のための補助金を支給する．

（ｂ）補助額：

原則として開催地により６段階（15万円から40万円まで５万円刻み）とする．

（ｃ）募集時期：

第１回：平成19年２月10日（日本統計学会事務局宛の締め切り）

第２回：平成19年５月末日（日本統計学会事務局宛の締め切り）

注）第２回は，第１回選考の結果，余裕定員があるときにのみ応募する．

（ｄ）応募の条件：

派遣先の国際会議は申請学会が公認したものであること．申請学会からの派遣者が同会議での報告者または討論者であること．被派遣者は，過去５年間，日本学術会議から派遣費を受けていないこと，また，当年度において，日本学術会議をはじめ他の機関から補助を受けていないこと．申請は，１回の募集につき１学会１件に限る．

12. 2006年度統計関連学会連合大会会計報告

2006年度連合大会事務局

2006年度連合大会事務局から以下の会計報告が提出されました。

2006年11月15日

収入	
大会収入	\4,231,500
チュートリアル収入	\643,000
懇親会収入	\798,500
広告・展示	\2,054,265
寄付・助成金	\100,000
その他	\3,013
2005年度繰越金	\2,325,885
収入合計	\10,156,163

支出	
会場費	\739,033
webシステム	\371,742
プログラム・資料・ポスター作成費	\2,660,069
懇親会費	\835,400
通信・運搬費	\408,146
文具・事務費	\83,728
講師謝金	\204,000
人件費	\823,720
コンペティション	\63,901
会議費・委員旅費補助	\88,660
保育室補助	\5,053
その他（銀行手数料，クレジット手数料）	\102,525
繰越金	\3,770,186
支出合計	\10,156,163

13. 学会誌の機関購読等に関するお願い

事務局では日本統計学会誌の定期購読のお取り扱いをしております．個人，機関等を問わず１年分（欧文誌２号，和文誌２号）が9,000円です．公費による購入にも対応いたしますので，これを機会に統計関係の学科・教室等での機関購読を是非ご検討下さい．またバックナンバーについてのご相談にも応じます．

また韓国統計学会との協定により，両学会の欧文誌を交換（特別価格にて提供）しており，日本統計学会会員個人には，年2,500円で韓国統計学会誌を提供しております．国際交流に是非お役立て下さい．韓国統計学会誌（*Journal of the Korean Statistical Society*）は年間４号が刊行され，１号あたり平均150ページというボリュームです．詳細は韓国統計学会ホームページ（http://www.kss.or.kr/）をご覧下さい．こちらの公費購入等も承ります．機関購読の場合は13,000円／年とさせていただきます．

以上いずれも詳細は学会事務局へご照会下さい．

14. 評議員会議事録

●2004・2005年度第5回評議員会議事録

日　時：2006年９月５日（火）15：00－16：30
場　所：東北大学　講義棟A204教室
出席者：山本拓会長，竹村彰通理事長，評議員：稲葉弘道，岩崎学，牛沢賢二，木下宗七，国友直人，栗原考次，小西貞則，佐藤整尚，清水邦夫，杉山高一，高橋一，田村義保，垂水共之，大戸隆信，広津千尋，藤井光昭，舟岡史雄，前田忠彦，牧野都治，矢島美寛，宿久洋，渡辺則生，渡辺美智子（以上25名，委任状11通）
（オブザーバ：駒木文保，黒住英司）

冒頭，会長より，評議員会の成立が宣言され，オブザーバ２名の参加が承認された．

報告事項：
〈議題１〉理事会からの報告
竹村理事長より，４月から事務業務を外部委託していること，事務局員の交代があったこと，大内賞および朝日賞の推薦を行ったこと，会報の発行状況等について報告があった．
〈議題２〉日本統計学会賞，統計活動賞，統計教育賞の受賞者について
山本会長より，資料に基づいて各賞の受賞者が紹介された．
〈議題３〉日本統計学会小川研究奨励賞受賞者について
山本会長より，資料に基づいて小川研究奨励賞の受賞者が紹介された．
〈議題４〉各委員会からの報告
［学会活動特別委員会，学会組織特別委員会，統計教育委員会］
学会活動特別委員会ならびに学会組織特別委員会からの報告は審議事項の検討時に行われた．
［統計教育委員会］
渡辺委員より，資料に基づいて「21世紀の知識創造社会に向けた統計教育推進への要望書」を文部科学省に提出したこと，複数のシンポジウムを開催したこと等が報告された．
〈議題５〉75周年記念事業委員会報告
杉山委員長より，今後開催される研究集会について説明があった．
〈議題６〉入退会者の確認
入退会者が回覧資料にて確認された．
〈議題７〉その他
・田村評議員より，統計数理研究所で開催された夏季大学院の試行について報告があった．
・前田評議員より，事務業務委託の状況について説明があった．

審議事項：
〈議題８〉2005年度事業報告案，同決算案および会計監査について
前田評議員より，資料に基づいて2005年度決算案および事業報告案が，渡辺監事より監査の結果がそれぞれ報告され，了承された．
〈議題９〉2006年度事業計画案，同予算案について
駒木理事より，資料に基づいて2006年度予算案および事業計画案が説明され，了承された．
〈議題10〉総会の式次第について
山本会長より，資料に基づいて総会の式次第が説明され，了承された．
〈議題11〉第75回大会について
竹村理事長より，75回大会は9/6から9/9に神戸大学で連合大会として開催予定であることが報告された．また，連合大会以外に，日本統計学会独自の大会・シンポジウム等を開催すべきかどうか意見が交換された．
〈議題12〉日本統計学会研究業績賞の創設について
山本会長より，資料に基づき日本統計学会研究業績賞の創設が提案された．学会活動特別委員会

の国友委員より，賞の創設が提案された経緯および賞の具体的内容について説明があり，賞の創設が了承された．

〈議題13〉会則の改正について

前田評議員より，資料に基づいて事務局に係わる会則・細則の改定について説明があり，了承された．

〈議題14〉その他

（1）学会組織特別委員会の垂水主査より，資料に基づいて評議員選挙開票時の当選人数について新たな提案がなされ，意見が交換された後，了承された．

（2）次期評議員会への引継ぎ事項として，以下の事項が挙げられた．

・連合大会以外に，統計学会独自の大会・シンポジウムなどの開催を検討すること．
・分科会の存続ならびに新規の募集を行うこと．
・プライバシー・ポリシーの作成を検討すること．

（3）赤池名誉学会員の京都賞受賞に関係して，祝賀会・シンポジウムの開催を行うかどうか意見が交換された．

●2006・2007年度第１回評議員会議事録

日　時：2006年９月６日（水）18：30〜20：00
会　場：東北大学川内北キャンパスA棟A204教室
主席者：山本拓会長，竹村彰通理事長（2004・2005年度理事長），稲葉弘道，鎌倉稔成，川崎能典，北川源四郎，国友直人，栗木哲，栗原考次，桑原廣美，小西貞則，駒木文保，佐藤整尚，清水邦夫，杉山高一，瀬尾隆，高橋一，田中勝人，富澤貞男，大戸隆信，根本二郎，馬場康維，藤井光昭，藤井良宜，藤越康祝，牧野都治，水田正弘，矢島美寛，宿久洋，吉田朋広，若木宏文，渡辺則生（以上32名，委任状８通）

冒頭，山本会長より定足数確認，開会宣言および挨拶があった．

報告事項：

〈議題１〉前評議員からの引き継ぎ事項

山本会長より，前日（９月５日）に開催された2004・2005年度最終回の評議員会から，今期への申し送り事項となった事項３点について次の通り説明があった．

・プライベートポリシー：学会としてプライベートポリシーを確立すべきであるとの議論があり，今期評議員会において策定が期待されている．内容としては学会組織特別委員会が対処することになるであろう．
・春の大会：春に大会を開催する可能性を検討してはどうかとの議論がある．詳細は今後検討していくべきだろうが，昨日の旧評議員会では，若手の発表会やシンポジウムという案も出た．本件は学会活動特別委員会が検討することになるであろう．
・分科会の新規立ち上げ：現在活動中の研究分科会が３件あるが，本年11月に３件とも４年経過し終了する．今後の立ち上げ，あるいは継続を評議員会でサポートして欲しい．特にどの委員会というわけではなく，積極的に分科会を推進していただきたい．

審議事項：

〈議題２〉理事長の選出

会長の推薦により，駒木文保，川崎能典の両氏を選挙管理委員に選出した．選挙方法の説明・確認の後，出席評議員互選による選挙を行った．２回目の投票で過半数の票を得た田中勝人氏を新理事長に選出した．田中評議員より承諾の意思表明および挨拶があった．

〈議題３〉学会活動特別委員会，学会組織特別委員会の立ち上げ

山本会長より，資料に基づき学会活動特別委員会，学会組織特別委員会の委員についての確認があり，両委員会の発足を承認した．

〈議題４〉学会活動特別委員会，学会組織特別委員会主査の選出

山本会長より，両委員会の主査の選出について，

各委員会メンバーの互選で最多得票者を主査と選出する旨の提案があり了承された．選挙の結果，学会活動特別委員会は清水邦夫評議員が，学会組織特別委員会は田中豊評議員が主査に選出された．

〈議題５〉統計教育委員会の立ち上げ

山本会長より，資料に基づき統計教育委員会の評議員委員に関する説明があり，若干のメンバー追加を経て発足を承認した．

〈議題６〉統計教育委員会委員長の選出

評議員委員の互選により委員長を選出するとの統計教育委員会運営規定に基づく投票の結果，村上征勝評議員が委員長に選出された．

〈その他〉

次回評議員会は11月下旬に開催する．

［議事録参考資料］

2006・2007年度特別委員会

・学会活動特別委員会

伊藤彰彦，稲葉弘道，鎌倉稔成，川崎　茂，北川源四郎，国友直人，栗原考次，駒木文保，佐藤学，清水邦夫（主査），富澤貞男，大戸隆信，馬場康維，早見　均，樋口知之，藤越康祝，水田正弘，宿久　洋，山本　拓，吉田朋広，若木宏文

・学会組織特別委員会

川崎能典，栗木　哲，桑原廣美，小西貞則，佐藤整尚，杉浦成昭，杉山高一，瀬尾　隆，高橋　一，竹村彰通，田中勝人，田中　豊（主査），根本二郎，福井武弘，藤井光昭，藤井良宜，牧野都治，村上征勝，矢島美寛，渡辺則生

・統計教育委員会（評議員委員）

伊藤彰彦，栗原考次，杉山高一，瀬尾　隆，田中豊，大戸隆信，馬場康維，藤井良宜，牧野都治，水田正弘，村上征勝（委員長），宿久　洋，若木宏文

15．理事会議事録

●2004・2005年度第10回理事会議事録

日　時：2006年７月22日（土）12：00～15：30
場　所：統計数理研究所　会議室
出席者：山本拓会長，竹村彰通理事長，鎌倉稔成，西郷浩，今野良彦，栗原考次，谷崎久志，汪金芳，岩下登志也，田村義保，前田忠彦，黒住英司，駒木文保，竹田裕一（以上14名）

報告事項：

〈議題１〉会長からの報告

山本会長より，各種賞の推薦状況が報告された．また，75周年記念事業の進捗状況ならびに今後の予定が報告された．

〈議題２〉理事長からの報告

竹村理事長より，今年度連合大会の準備状況ならびに来年度の連合大会開催場所が神戸大学に決まった事が報告された．また，評議員選挙が行われた事が報告された．

〈議題３〉各理事からの報告

［欧文誌］

欠席の田中担当理事にかわり，前田理事より，欧文誌編集が順調に進捗している事が報告された．

［和文誌］

鎌倉担当理事より，和文誌発行の進捗状況が報告された．現在，５つの話題に関する特集の準備が進行中である．今年の９月号は鎌倉理事が担当し，それ以降の特集号は次期和文誌担当理事に引き継ぐ事が確認された．また，75周年記念特集号を増刊号として発行するかどうか，意見が交換された．

［広報］

栗原担当理事より，会報No.128が７月中に発行される予定である事ならびに会報の構成が報告された．谷崎担当理事より，学会のサーバー移転の

事案が報告され，理事会でも移転を推進する事となった．また，来年度連合大会での保育室の確保に関して意見が交換された．

［渉外］

欠席の国友担当理事にかわり，前田理事より，研究業績賞の創設について評議員会で検討する必要があることが報告された．また，配布資料により，研究業績賞規程（案）が検討され，若干の修正箇所が指摘された．岩下担当理事より，JSTによる過去の学会誌の電子ジャーナル化について，まだ可否の報告が届いていない事が報告された．汪担当理事より，連合大会での韓国セッションの準備が順調に進んでいる事が報告された．また，日本統計学会の英文紹介資料が紹介された．田村担当理事より，科研費の採択状況について報告があり，学会員に科研費応募を積極的に推進すべきであるという助言があった．

［大会企画・事務局］

西郷担当理事より，今年度連合大会の企画およびWeb申し込みの開始などについて説明があった．今年度使用した統計学会の広告依頼先のリストを来年度も連合大会で使用する事が提案され，了承された．また，過去のプログラム編成の状況を考えると，今後，企画委員会には複数の経済学系出身者が委員となる事が望ましいとの指摘がなされた．今野担当理事より，広告掲載ならびに大会事務局の状況について説明があった．大会事務局に関連して，前田理事より，事務業務外部委託先の担当者に，連合大会へ同行して評議員会の補助を依頼していることが報告された．

［75周年記念事業］

竹田担当理事より，現在，寄付の依頼を行っている事が報告された．

［庶務会計］

前田担当理事より，事務局員の交代があった事，評議員選挙のルールの説明，資料に基づく評議員選挙の結果，ならびに，会報No.128からは事務業務外部委託先が校正等の作業を担当している事が報告された．また，評議員に関してはある程度の地域性を持たせた方が良いという意見があり，検討の必要性があることが確認された．

審議事項：

〈議題４〉会則第２条の改正について

前田理事より，事務局移転に伴う会則の改定案が提示され，了承された．

〈議題５〉2005年度事業報告案・決算案について

前田理事より，資料に基づき2005年度事業報告案・決算案の詳細な説明があり，誤字などの修正を施した上で了承された．

〈議題６〉2006年度事業計画案・決算案について

駒木理事より，資料に基づき2006年度事業計画案・決算案の詳細な説明があり，誤字などの修正を施した上で了承された．また，理事会出席のための旅費の扱いについて検討がなされた．

〈議題７〉入退会者の承認

回覧資料により入退会者について説明があり，了承された．

〈議題８〉総会準備について

前田理事より，総会の準備状況について説明があった．

〈議題９〉その他

・前田理事より，計量心理学会国際大会への協賛依頼があることが報告され，協賛が了承された．
・竹村理事より，資料に基づき，60周年記念基金の運用規則の改定は行わない事が報告された．今後の動向については，60周年基金運営委員会理事長からの提案があり次第，検討を行う事となった．
・竹村理事より，次期理事会の体制と引き継ぎ準備について報告があり，引継ぎ事項について意見が交換された．

16. 研究集会案内

●The Third Symposium on Econometric Theory and Applications: Advances in Time Series and Panel Data Econometrics

日時・場所：2007年４月13～15日，Hong Kong University of Science and Technology, Hong Kong

論文締め切り：2007年１月31日

ゲストスピーカー：

・Jushan Bai, New York University, USA
・Jan Kiviet, University of Amsterdam, Netherlands
・W.K. Li, University of Hong Kong, Hong Kong
・Peter Phillips, Yale University, USA and University of Auckland, New Zealand
・Masanobu Taniguchi, Waseda University, Japan

URL: http://www.ust.hk/SETA2007

●IMST2007-FIMXV:

Fifteenth International Conference of Forum for Interdisciplinary Mathematics on Interdisciplinary Mathematical and Statistical Techniques

http://imst2007.southalabama.edu/

May 20-23, 2007

Shanghai Institute of Advanced Studies, University of Science and Technology of China, Shanghai, China

The Forum for Interdisciplinary Mathematics and, Department of Statistics and Finance-University of Science and Technology of China are proud to co-organize international conference/workshops at Shanghai Institute of Advanced Studies, Shanghai, China. The academic activities of the conference will be in all areas of mathematical and statistical sciences including: bioinformatics and biostatistics, combinatorics and graph theory, computer and information sciences, environmental statistics, financial mathematics and econometrics and operations research. Proposals to organize a symposium should be sent to the organizers by January 15, 2007.

The conference will also highlight following exclusive features:

1. A short course/workshop on “Statistics, Geometry and Brain Mapping.”
2. A short course/workshop on “Sequential Statistical Methods in Design and Analysis of Clinical Trials.”
3. A separate section on student paper competition. A selection panel will judge the presentations for awards.
4. Poster sessions.
5. A must-attend session on “Editors RoundTable;” to help scholars appreciate the “current trends and techniques” of scholarly publications.

For further details visit our website or contact Satya Mishra（mishra@jaguar1.usouthal.edu）.

17. 新刊紹介

●濱田昇・田澤新成著『統計学の基礎と演習』共立出版株式会社（価格：1900円＋税）2005年９月

統計学は社会現象を扱う理学・工学・医学・薬学など幅広い分野で利用されています．本書はこれらの分野の教養科目や専門科目に用いる教科書として書かれたもので，統計学の基礎を豊富な具体例を用いて解説しています．

●瀧澤毅著『薬学系学生のための基礎統計学』ムイスリ出版（価格：本体1850円）2006年７月

医薬品添付文書に記載されている医薬品の有効率・副作用発現率・オッズ比などを例に確率・確率分布・統計的推測・統計的仮説検定を解説した．高校数学Ｃの「確率と確率分布」,「統計処理」

の内容を含めている．

●和田光平著『Excelで学ぶ人口統計学』オーム社（価格：3800円＋税）2006年９月

Excelと連動した唯一の人口統計学テキストである．難解な人口統計学用語はもちろん，コーホート要因法による人口推計も細かく解説されている．また本文中の例題データや計算シートはすべてWEB上から入手可能である．

●上藤一郎・森本栄一・常包昌宏著『調査と分析のための統計－社会・経済のデータサイエンス－』丸善（価格：税込み2,415円）2006年10月

社会・経済分野における調査データを対象に，データサイエンスの立場から主に記述統計の基礎を平易に解説しています．公務員試験の資料解釈で出題されたデータを多用し，また社会調査士資格取得の配慮も加えた実践的な「データの科学」の入門書です．

●濱田昇著『情報理論と符号理論』共立出版株式会社（価格：2200円＋税）2006年10月

本書は，工学部の情報・通信・電気・電子工学，および，理学部の数学系・情報系の学生を対象にする「情報理論・符号理論」の教育に用いる教科書として書かれたもので，情報理論や符号理論を分かりやすく簡潔に解説しています．

●田中勝人著『現代時系列分析』岩波書店（価格：税込み5,250円）2006年11月

本書は，時系列分析の理論に関して，古典的に重要な事項をはじめ，最新のトピックスとして，「長期記憶的な時系列」，「フラクショナル・モデル」，「GARCHモデル」，「単位根時系列」，「共和分」，「ウェーブレット解析」などについて解説したものである．

●藤澤洋徳著『現代基礎数学13　確率と統計』朝倉書店（税込み価格：3465円）2006年12月

本書では「具体例を動機として確率と統計を少しずつ創っていく」という感覚でテキストを記述してみました．一人でも多くの学生が，面白く楽しく躍動感を感じながら，確率と統計を学んでくれればと思っています．

18．事務局から

訂正

前号（No.129）の会報の24ページの「13. 2007年度統計関連学会連合大会について」の項目で，「応用統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会の主催，日本計算機統計学会・日本分類学会の協賛で，……」という文章を「応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会の主催，日本分類学会の協賛で，……」に訂正します．日本計算機統計学会も2007年度統計関連学会連合大会に参加することが，2006年11月４日に開催された2007年度連合大会運営委員会で確認されました．

お詫び

新会長選出の投票におきまして，投票用紙を選挙権のない賛助会員および学生会員にも誤って送付してしまいました．そこで，選挙権を持つ正会員，名誉会員のみに色を変えた投票用紙と返送用の封筒を再送付しました．

この事態に伴い，投票締め切り日は，従来の12月18日から12月25日に延期いたしました．

混乱を招き，ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします．今回の不手際は，事務局移行に伴う連絡不徹底から生じました．今後このようなことのないように尽力いたします．

投稿のお願いとお知らせ

統計学の発展に資するもの，会員に有益である

と考えられるものなどについて原稿をお送りください．新刊の紹介なども歓迎いたします．

来日統計学者の紹介につきましては，訪問者の略歴，滞在期間，滞在先，世話人などをお寄せ下さい．さらに，求人案内（教員公募）なども受け付けております．

できるだけE-mailによる投稿，もしくは，文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します．

原稿送付先

〒657-8501　神戸市灘区六甲台町2-1
神戸大学大学院経済学研究科　谷崎 久志 宛
Tel: 078-803-6831　　Fax: 078-803-6831
E-mail: koho@jss.gr.jp
（統計学会広報連絡用e-mailアドレス）

学会費払込のお願い

2006年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います．会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします．速やかな納入にご協力をお願い申し上げます．また便利な会費自動払込制度もご用意しています．次の要領を参照の上，こちらもご活用下さい．

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに，氏名と住所を以下にお伝えください．手続きに必要な書類が送付されます．

〒107-0062　東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F
財団法人 統計情報研究開発センター内
日本統計学会係
Tel & Fax：03-5467-0483
E-mail：shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました．謹んで追悼の意を表し，御冥福をお祈り申し上げます．

河合　三良	会員
丘本　正	名誉会員

現在の会員数（2007年１月20日）

名誉会員	24名
正会員	1475名
学生会員	78名
総計	1577名
賛助会員	17法人
団体会員	４団体

・統計学会ホームページURL：
http://www.jss.gr.jp/
・統計関連学会ホームページURL：
http://www.jfssa.jp/
・75周年記念事業ホームページURL：
http://www.math.chuo-u.ac.jp/~sugiyama/jss75
・住所変更連絡用e-mailアドレス：
meibo@jss.gr.jp
・広報連絡用e-mailアドレス：
koho@jss.gr.jp
・その他連絡用e-mailアドレス：
shom@jss.gr.jp